

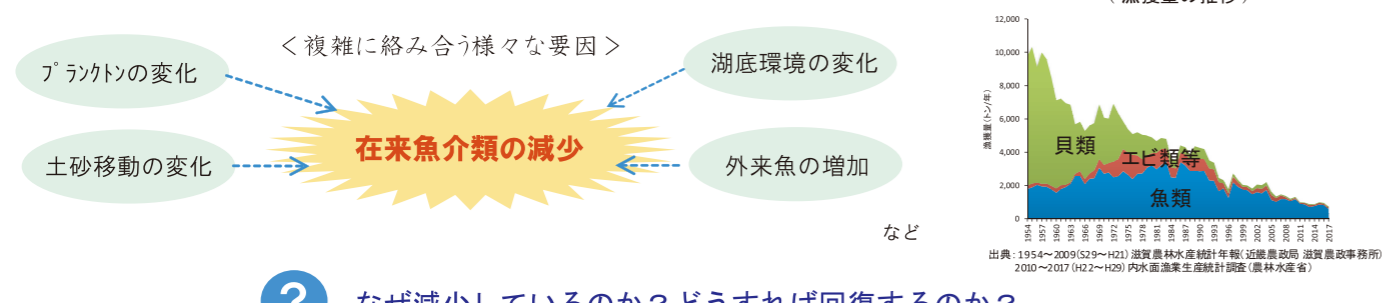
【推進機構研究】

在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究

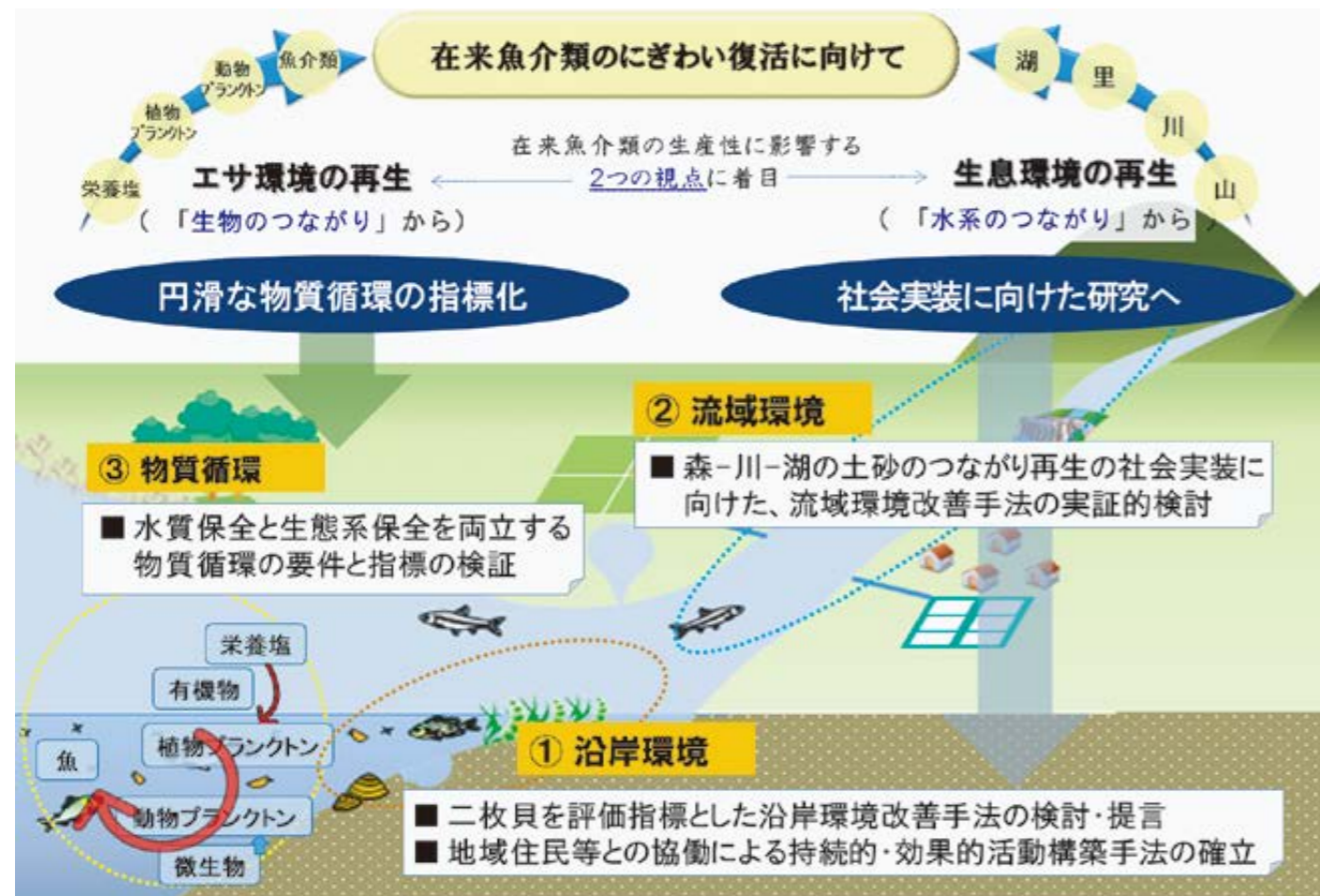
※当研究は政策課題研究1～3から構成

琵琶湖流域における喫緊の課題である「在来魚介類の減少」に対して、県行政部局と県立試験研究機関が一堂に会する琵琶湖環境研究推進機構（平成26年度創設）において、実証的な調査研究などを実施することにより、減少要因の解明と在来魚介類のにぎわい復活に向けた政策提案を行います。

【琵琶湖流域生態系における喫緊の課題】



なぜ減少しているのか？ どうすれば回復するのか？



政策課題研究 1

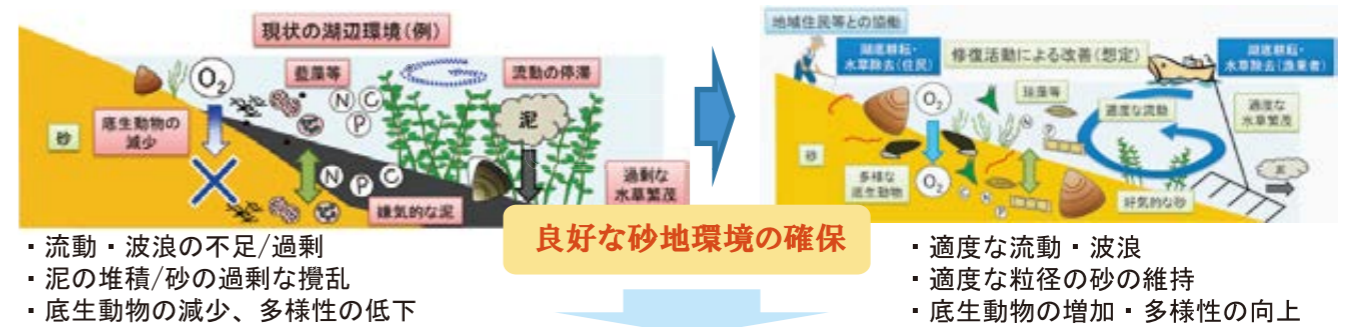
二枚貝等を評価指標とした湖辺環境改善手法の検討・実装に関する研究

二枚貝を指標とした湖辺環境評価・改善の実践結果に基づき、その手法をまとめた「(仮称)湖辺環境改善技術資料」を作成し、「技術資料」に則して琵琶湖湖辺の複数地点で現状の評価・解析を行い、湖辺環境の改善目標と対策について提言します。また、住民等による持続的・効果的活動の構築手法を確立・実装します。

＜サブテーマ＞

- ・二枚貝等を評価指標とした環境改善手法の検討・実装
- ・砂地環境改善に向けた現状比較

【現状における課題】



湖辺環境改善手法の確立・実装

【課題解決に向けた対応】

- 湖辺の健全な生態的機能を回復させる手順の確立と社会実装
 - 底生動物と生息環境（底質粒径等）、餌環境（植物プランクトン等）、形成基盤（流動、波浪等）との対応関係の解析
 - 住民参加による環境修復活動の効果検証
 - （仮称）湖辺環境改善技術資料の作成・実装
- 砂地の造成が底生動物と生息環境に及ぼす長期的な影響の評価
 - 10年程度前の養浜事業実施の有無による底生動物、底質、植物プランクトン等の動態の比較
 - 砂地化による長期的な生息環境・餌環境への影響評価



- 湖辺環境の改善目標と対策の提言
- 地域の保全活動の担い手(住民・漁業者等)による環境修復活動の広がり